



N.S.ニュース速報A

NSDAP/AO : PO Box 6414

Lincoln NE 68506 USA

www.nsdapao.org

#1129

03.11.2024 (135)

A. V. Schaerffenberg

白人種の知られざる英雄たち

パート2

フリッツ・ユリウス・クーン

1958年10月6日、ジョージ・リンカーン・ロックウェルは第二次世界大戦後初めて鉤十字の旗を掲げた。元米海軍中佐である彼は、自伝『*This Time the World*』の中で、その日をヒトラー以後の時代におけるアメリカ国家社会主義の公式な始まりとみなしていたことを明らかにしている。ロックウェル中佐は確かに、この運動がアメリカで生み出した最も有名な指導者ではあったが、彼が最初ではなかった。彼の時代より20年、30年以上も前に、他にもいた。彼らの名前、行動、運命は、彼らの闘争と彼の闘争の間に介在した戦争という大惨事によって、ほとんど完全に消し去られてしまった。しかし、戦前の国家社会主義者の中で最もよく記憶



Fritz Julius Kuhn

されているのは、敵対的なマスコミによって「ドイツ系アメリカ人バンド」と不正確に表現された現象に属していた人々である。

今日でも、国家社会主義者の中には、アメリカ人であろうとなかろうと、その名前を口にするだけで恥ずかしくて身がすくむような人もいる。彼らは、外務省を非常に悪い過ち、忘れた方がいいものとみなしている。その主な理由は、国家社会主義がアメリカ征服を企むドイツの陰謀に過ぎないという考えを助長し、敵の思うつぼにはまったからである。しかし、『アメリカにおけるナチス運動』のユダヤ人著者が明らかにした真実は、まったく異なるものだった。サンダー・ダイヤモンドは、その対象に対しては当然ながら敵意を抱いているが、それにもかかわらず、標準的な誹謗中傷にほとんど（そして驚くべきことに）彩られることなく、信じられる外務省の見解を示している。物議を醸したこの組織に関する唯一の本格的な歴史書である。それでも、少なくとも我々の運動の遺産の重要な部分については十分な説明をしている。

少なからぬ同志が、バンドはわれわれの遺産の一部ではまったくないと抗議するだろう。その信奉者たちは、「アーリア人」を「ドイツ人」の同義語とみなすだけの近視眼的なチュートニック民族主義者にすぎなかった。言い換えれば、彼らはロックウェルが国家社会主義に見出した世界的な白人と人種の統一には何の関心も持たず、ただアメリカ国内のドイツ人コミュニティを組織することだけに邁進していたのである。ダイヤモンドの信頼できる研究によれば、このような解釈はわずかに正確である。興味深いことに、彼がこの本を出版したのは、彼が書いた出来事から40年以上も後のことである。この現代の闘争について実際に言及することなく、ダイヤモンドは推論を通して、外灘戦争との類似性を示したかったのだ。おそらく彼は正しかった。バンドを純粋な国家社会主義組織として受け入れることができるかどうかは別として、バンドは、好むと好まざるとにかかわらず、われわれのイデオロギーの系譜から切り離すことのできない歴史的な存在である。さらに、真実は、一部の同志が予想するほどひどいものではない。

チュートニアンと仲間たち

米独人民連盟（正式名称）は、アメリカにおける国家社会主義の最初の現れではなかった。早くも1923年3月（ミュンヘン一揆の実に8カ月前）、シカゴのノースサイドに近い住宅地から、鉤十字の旗が初めてアメリカに掲揚された。旗を掲げたのは、戦後の飢餓状態にあったドイツからの移民を中心とする数人の男たちで、彼らは「トイトニア・クラブ」で結束していた。メンバーはおそらく十数人で、国家社会主義への共通の愛を分かち合うことだけが目的だった。その名が示すように、彼らの目的はドイツとヒトラーの戦いに送られる小額の寄付金を集めること以外には、政治的な目的はなく、単なるクラブに過ぎなかった。

11月9日のミュンヘンでの大失敗の後、失敗した一揆からの避難民がアメリカに到着し、シカゴの同志たちの小さな集まりに加わった。ヒトラーが首相に選出された1933年1月30日までに、テイトニア協会の友愛会員は500人に達し、そのほとんどがシカゴ、デトロイト、ニューヨークにいた。総統の勝利を祝って、シカゴで最も有名なレストランの一つ、クラーク通りのノース・アベニューに近いレッド・スター・インの経営者を説得し、屋上から巨大な鉤十字の旗を掲げたのである！しかし、この旗の掲揚は、非常に深刻な問題の到来を告げるものでもあった。

国家社会主義者が選挙で勝利したため、テュートン協会には突然、何千人もの入会希望者が殺到した。圧倒的な関心の流入に対応する正式な組織がなかったため、協会は解散せざるを得なくなり、その代わりに、大量の会員に対応するための新しい組織が作られた：新ドイツの友人たち」である。F.O.N.G.は、その急成長にもかかわらず、ピクニックやビアホールでアドルフ・ヒトラーを賛美するドイツ系アメリカ人による友愛団体であり続けた。しかし、その無害な性格は長くは続かなかった。

4月初旬、アメリカ・ユダヤ人会議とB'nai B'rithは、たとえ経営者が代々アメリカ人であったとしても、アメリカ国内のすべてのドイツ系商店に対して、全国的なボイコットを開始した。ユダヤ人たちは「ドイツ製品を買いな！」と要求した。突然、それまでアメリカの大都市に馴染んでいたデリカテッセン、楽器店、おもちゃ屋が窓ガラスを割られ、客を「ファシスト

だ！」と罵倒され、店主を暴力で脅し、それが時には不運な店主の身に降りかかった。

その夏、ユダヤ人とその下僕である異邦人たちは、ニューヨークの巨大なマディソン・スクエア・ガーデンを借り切って、大規模なメディアイベントを行った。そこでは、アドルフ・ヒトラーとその追随者たちが「人道に対する罪」で告発される模擬裁判が行われた。報道機関や主要ラジオ局、ハリウッドのニュース映画などで、ユダヤ人たちは大量殺人や絶滅収容所について熱弁をふるい、憎悪を抑えきれずに発作的に床に転がり、旧約聖書の最高のスタイルで衣服を引き裂いた。それはもちろん、ユダヤ人の最高の復讐行為である戦後のニュルンベルク裁判のためのウォームアップであった。タルムード的な“法”への執着から、欠席裁判でヒトラーに下された有罪判決（この言葉はニュルンベルクで再使用され、現在でも、国家社会主義者の過去を告発された八十代の男がユダヤ人によって指弾されるたびに使われる）に驚く者はいなかったし、予想通りの死刑判決が、まるでプリムの一場面のように、ヘブライ教徒の集会で熱狂的な歓喜をもって迎えられたことにも驚く者はいなかった。このようなヒステリックな手続きが行われたのは、ヒトラーが政権に就いてからわずか数ヵ月後のことであり、ニセの「ホロコースト」が始まったとされる10年以上も前のことである。実際、この復讐に燃えたショー・トライアルは、国家社会主義ドイツに対する彼らの公式宣戦布告であった。彼らは、反抗的なドイツを経済的に崩壊させるために、あらゆる経済的な糸を引くことを公に約束したのである。

ユダヤ人の宣戦布告

ヘイト裁判の主席主催者であり、反ドイツ・ボイコットのスポークスマンであった人物が、ユダヤ人のやっていることを正確に要約した。ニューヨーク最大のラジオ局（WABC）で放送され、翌日（1933年8月7日）

『ニューヨーク・タイムズ』紙に掲載された、世界ユダヤ経済連盟会長のサミュエル・ウンターマイヤーはこう叫んだ。ユダヤ人であれ異邦人であれ、まだこの神聖な戦争（筆者イタリック体）に入隊していない者は、今ここで入隊すべきである。ドイツ製の商品を買わないだけでは十分ではな

い。ドイツ製の商品を売る商人や店主、あるいはドイツ船や海運をひいきにしている商人や店主との取引を拒否しなければならない。われわれが提案し、すでに実行に移しているのは、ヒトラー政権を弱体化させ、ドイツ国民の存在そのものがかかっている輸出貿易を破壊することによって、ドイツ国民に正気を取り戻させる、純粹に防衛的な経済ボイコットの実施である。結論として、この心温まる歓迎に改めて感謝し、あなたの支援と何百万人も非ユダヤ人の友人（筆者イタリック）の支援によって、偏見と狂信の棺桶に最後の釘を打ち込むことを保証することをお許しいただきたい。”

ウンターマイヤーの死と破壊を煽る憎悪に満ちた口調は、彼の興奮した甲高い鼻声がなくとも、活字にさえ明らかである。彼は、このゲームの早い段階でドイツの破滅を煽ることで、「シオンの長老たちの議定書」

(Protocols of the Learned Elders of Zion) を積極的に履行していたのである。経済的侵略が最終的に軍事的侵略に転化したとき、常にそうしなければならなかったように、ウンターマイヤーが1933年に世界ユダヤのために行った宣言は忘れ去られることはなかった。世界ユダヤ人会議のイギリス支部長モーリス・L・ペルツヴァイクは、「世界ユダヤ人会議は7年間ドイツと戦争してきたのだ！」と喜んだ。（1941年4月7日付のロンドンの『ジューイッシュ・スタンダード』紙で、ジェフリー・マンダーが「世界中のユダヤ人の大義は、イギリスとその同盟国が戦っている大義である」と述べたのに続いて、1942年10月付のニューヨークの『ジューイッシュ・ミラー』紙は、世界で最も影響力のある人物の一人で、アメリカ・シオニスト組織の権力者であるルートヴィヒ・ルイゾーンの言葉を引用して、「ユダヤ人はこの戦争の本質の象徴である。他の誰でもない。他の何者でもない。これがアルファでありオメガであり、すべての問題の始まりであり終わりである！」

アメリカのストームトルーパー誕生

アメリカ当局は当然のことながら、ドイツ系アメリカ人のビジネスマンをユダヤ人から守ろうとはしなかったので、F.O.N.G.に助けを求める声が上がった。F.O.N.G.の組織者たちは、全ボランティアによる警備サービスを

創設することでこれに応え、制服を着た男たちが脅かされている店の前で警備に当たり、ドイツ系アメリカ人の立場からジレンマを説明するビラを配った。O.D. ("Ordnungs Dienst", "Order Service") として知られるその活動家たちは、不況下のアメリカの中小企業を破滅から救うと同時に、ユダヤ人による街頭テロから生命と身体を守るという大きな役割を果たした。

大西洋の反対側では、ベルリンの指導者たちはアメリカの動向に気づかなかったわけではない。そこでのユダヤ人の行動は予測できたし、彼らが公共情報手段のほとんどを掌握していることも同様に評価されていた。旧 N.S.D.A.P.-A.O. は、国内外の国家社会主義者間のコミュニケーションのために特別に作られた党の事務所で、エルンスト・ボーレが代表を務めていた。イギリスで生まれた彼は、青年期を南アフリカで過ごした後、1923年にベルリン大学で商学士号を取得した。同年11月の劇的な出来事に触発され、ヒトラーの駆け出しの運動に加わり、急速に出世して外務省の事務次官になった。ボーレは、自分の事務所からユダヤ人ボイコットの本質に関するいかなる声明が出されても、アメリカのユダヤ化した報道機関によって黒塗りにされるか、反ドイツの目的のために捻じ曲げられることを承知で、F.O.N.G. にビラ、書籍、フィルムを送った。

ボーレは情報発信の量を大幅に増やしたいと考えていた。しかし彼は、そのような資料がアメリカ国内のグループによって配布されることを懸念していた。彼の文献や映画がこの国のドイツ人コミュニティを通じてのみ発行される限り、アメリカ人は論理的に、それらを「ナチスのプロパガンダ」にすぎないと考え、外国勢力の偏った視点だと頭から否定してしまうからだ。彼は新ドイツのアメリカに対する好意と友好を示したかったのだ。確かに、当時はシルバー・シャツ軍団という在来为国家社会主義組織が活動していた。しかし、その指導者ウィリアム・ダドリー・ペリーは、すでにFBIや議会の調査委員会の厳しい監視下に置かれており、ベルリンの資料を限られた量しか配布しないことにした。

ボーレが第三帝国の立場をアメリカ国民に受け入れられやすいものにしようと努力していたのに対し、F.O.N.G. の指導者たちは反対の方向に動いていた。彼らの努力は、アメリカ国内のドイツ語を話すコミュニティを組織化し、アメリカにいるすべてのドイツ人を祖国の一部とすることに集中

し、それ以外の人々については二の次とした。結果は予想通りだった。在米ドイツ人は、他のすべての移民と同様、祖国との情緒的・文化的なつながりを保っていたが、他のすべてにおいてまずアメリカ人となり、今や外国人と見なした人々による政治的な試みに憤慨したのである。「要するに、ドイツ系移民とその子孫はアメリカ人になり、アメリカ人であり続けることを望んだのである。彼らは、F.O.N.G.の同胞によって、自分たちの養子となった国への忠誠が損なわれることに憤慨した。

スターリンは労働者を利用したが、ヒトラーはドイツ系アメリカ人を利用した。スターリンは労働者を利用し、ヒトラーはドイツ系アメリカ人を利用した。その違いしか、彼らには理解できなかったのだ。世論の好ましくない変化に怯え、怒ったボーレは、F.O.N.G.の役員たちにドイツ人全員の追放を命じ、アメリカへの資材輸送を大幅に削減し、有名な声明を発表した：

「国家社会主義は輸出用ではない」。新ドイツ友の会は、敵であるユダヤ人の手を借りて、アメリカにおけるドイツの評判に大きなダメージを与えた。実際、F.O.N.G.の活動が下火になり、指導者たちの間で内紛が起こるにつれ、F.O.N.G.の日々は残り少なくなっていく。しかし、アメリカの国家社会主義は苦しんだ。

アメリカ人と第三帝国、相思相愛の関係

もちろん政府レベルではなく、1930年代半ばにアメリカのドイツ観光が急増したのである。ダイヤモンドも認めているように、「観光客が第三帝国に殺到した」のである。ドイツ・オリンピックの夏だった。ペンションやホテルは満室となり、外国人は首都に新しく建設されたアウトバーンや政府の建物に感嘆した。多くの人が、国家社会主義の精神は単なるプロパガンダの創作ではないと信じて帰国した」。彼は「ドイツを訪れたアメリカ人観光客の流れ」を挙げている。1936年にベルリンで開催されたオリンピックでは、アメリカ人はラインラント地方でおなじみの観光名所となり、ノールドリンゲンやローテンブルク・アン・デア・タウバーといった有名な中世の城壁都市を訪れた。オリンピックは8月16日に終了した。多

くの外国人観光客がドイツを離れたが、同じくらい多くの外国人観光客がドイツに留まり、9月8日から始まる党の日（Reichsparteitag der Ehre、「帝国の党名誉の日」）に出席する手配をした。そして、ソ連の自国民に対する鉄のカーテン政策とは異なり、“ドイツ人も大量にアメリカを訪れた”。明らかに、ヒトラーは亡命の心配などしていなかった。実際、彼はこの頃、夕食時の会話でさりげなくこう口にしていた。私は彼らの邪魔はしない。私たちがやろうとしていることに不満があるのなら、ここに留まるべきではない。ドアはいつでも開いている”

ちょうどユダヤ人ボイコットが彼の革命的な経済政策によって打ち破られ、帝国が世界中の崇拜者を惹きつける文化的磁石となった頃、低迷していたF.O.N.G.は、ボーレを落胆させながらも新たな息吹を得た。終わりのない口論に苛立ったフレンズたちは、フリッツ・クーンという組織のダイナモに権限を委ねた。彼はF.O.N.G.を解散させ、代わりに*Amerikadeutscher Volksbund*（米独人民同盟）を設立し、その後単にBundとして知られるようになった。1936年3月29日、39歳のクーンはブンデスライター（ブンド指導者）に選出され、「強力なカルト組織」を作り上げた。ダイヤモンドはさらに、「フリッツ・クーンの時代に、アメリカのナチ・バンドは、派閥化した非効率なグループから、活発な運動の道具へと変化した」と指摘する。実業家であったクーンは、ナチス・ドイツの支援に依存する借金まみれのグループから、自立した金儲けのできるグループへとブンドを変貌させることに成功した。ロサンゼルス、デンバー、ダラス、シカゴ、デトロイト、アトランタ、ニューヨークに地域本部ビルがあり、事実上すべての州に数十の小さな下部組織があった。数万人の喝采を浴びる信者の集まりは、全米各地のバンド・ミーティングでは珍しいことではなかった。このような変革をもたらしたのは、いったいどんな人物だったのだろうか？

ニュー・バンダ・リーダーが言葉を伝えている！

フリッツ・ユリウス・クーンは1896年5月15日、ミュンヘンで生まれた。第一次世界大戦が始まったとき、彼は西部戦線のバイエルン歩兵部隊の若き義勇機銃手だった。その知性と勇気で中尉にまで昇進し、一等鉄十字勲章を含む数々の勲章を受けた。カイザーの降伏により、故郷の街角では過

激な共産主義の勢力が解き放たれ、彼は1921年に新生N.S.D.A.P.に参加した。同年、ミュンヘン大学に入学し、化学工学を学び、学生仲間に共産主義を広めた。その2年後、一揆に参加した彼は、逮捕の危機にさらされながら、婚約者とともにメキシコ・シティへ逃亡した。そこで2人は結婚し、息子と娘の2人の子供をもうけた。その後4年間、フリッツは化学者として成功を収めたが、フォード・モーター・カンパニーからより良いオファーが来たため、家族をデトロイトに移し、帰化した。1933年、フリッツは新ドイツ友の会に入会し、F.O.N.G.の理事たちの満場一致で、低迷していた組織の責任者に任命されるまでに、中西部のリーダーにまで急成長した。

個人的には、フリッツ・クーンの骨太の体軀は、180cmの長身に熊のようにぶら下がっており、敵を威圧していた。しかし、彼の最も親しい仲間たちは、彼の穏やかなやり方と感傷的な心を最もよく知っていた。ユダヤ人に対して演説台から咆哮することもできた男は、毎年クリスマスになると、『きよしこの夜』を聴くたびに涙を流した。皮肉なユーモアのセンスに欠けることなく、反ユダヤ主義の非合法化に熱心な偏執狂的な保守派議員マーティン・ディースに、外務省の集会の無料招待券を送ったこともあった。何よりもクーンは、国家社会主義に対する激しい忠誠心、誠実さ、正しい行動を特徴としていた。彼がかつて宣言したように、「奉仕は好意や特権によって補われるものではない。歓喜に満ちた自己犠牲の精神によってのみ、われわれは勝利するのだ”。塹壕のベテランである老兵が、聞き手のより高い本能に訴えかけたのだ。ダイヤモンドも認めているように、「一般的に、彼の支持者たちは彼の作品を高く評価していた」。

新しい外務省指導者は、運動をアメリカナイズすることで再活性化することができた。もはや、広範な白人社会を犠牲にして、ほとんど消極的なドイツ人社会を政治化することにとられることはなかった。クーンは「ドイツ系アメリカ人の運命を嘆いた。なぜユダヤ系アメリカ人を支持して先祖伝来のルーツを断ち切るのか理解できなかった」。その代わりに、あらゆる国籍のアメリカ人が鉤十字に群がるようになった。1939年2月の典型的なブンドの集会では、非ドイツ人のラッセル・ダンが演説した。彼の聴衆は、30%がアングロサクソン系、スカンジナビア系、スラブ系、25%がアイルランド系、20%がイタリア系で、ドイツ人は4分の1もいなかった。

ダイヤモンドは、「公共行事に出席していたのは主に非ドイツ人だった」と書いている。反英労働者階級のアイルランド人、ロシア系エマージェンシー、イタリア系元軍人、コフリン派（絶大な人気を誇った “ラジオ司祭 “フランシス・コフリンの信者）、中流以下や労働者階級のアメリカ原住民が集会に参加していることに、観察者たちはますます気づくようになった」。

クーンはまた、アメリカ国内の事実上すべての右翼団体や人種主義団体、特にアメリカ初の本格的な国家社会主義団体であるシルバーシャツ軍団と協力関係を築いた：「しばしばブンディストは、ヨゼフ・サンティのリクトル協会、ジョン・フィンジオのサーコロ・マリオ・モルガンティーニ（両グループはイタリアの黒シャツ隊の一部門であった）、ウクライナの褐色シャツ隊、そしてペリーのシルバーシャツ隊やディートヘレージのアメリカ民族主義者連盟の残党（中略）と肩を並べて行進した。アメリカ民族社会主義は、その本領を發揮しつつあり、次の10年間にソビエト連邦と戦うことになる多数の非ドイツ人親衛隊部隊を予見してさえいた。文献や指導者たちの交流も日常茶飯事だった：「ニュージャージー州のキャンプ・ノルドランドでは、クー・クラックス・クランの代表やイタリア元コンバッテンティのノース・ハドソン支部長サルバトーレ・カリディが頻繁に講演していた」。このような文明的な協力は、過去50年間、ますます無力になっていくアメリカの右翼を象徴する、ささいな諍いとは対照的であった。

人間の顔をした国家社会主義

しかし、外務省の成長には別の理由もあった：「クーンの成功の一因は、指導者原理を堅持したことにあつた。彼は、国防総省の筋肉質だが柔軟な組織を作り上げたのと同じ基本的な信条を全メンバーに浸透させた：フォロワーに対する絶対的な権限、リーダーに対する絶対的な服従。このような軍隊的なやり方は、過激な共産主義者やヒステリックなユダヤ人からの激しい反発によって必要とされた。しかし、ブンドの魅力は、その劇的な行進や集会、ストリートバトルではなかった：

「20代の若者の多くは、運動プログラムを包括するブンドの友愛活動の

魅力に惹かれた。1936年の夏までに、外務省の2つのサッカーチーム、ハンザとハンブルクはニューヨーク州のトーナメントに出場した。また、テニス、ホッケー、水泳、スキーの競技チームもあった。競技志向でない人たちのために、外務省はキャッツキル山脈での週末スキーを主催した。毎週木曜日の夜9時から「ビールの夕べ」、アルコールが苦手な人のための「コーヒー・アワー」が開かれた。飲み物やサンドイッチは無料で、ランプが用意され、無料の映画が上映された。また、第三帝国の新しい芸術、音楽、建築の興味深いスライド上映もあった。

おそらく最も魅力的だったのは、美しい自然の中でバンドが運営する6つの広々としたキャンプ場だろう。グラフトン近郊のウィスコンシン州の「ヒンデンプルク」、ペンシルベニア州の「ドイチェンホルスト」、ニュージャージー州の「ノルトランド」、ヤファンクのロングアイランドの「ジークフリート」、ポンティアックのミシガン州の「エフデンデ」などである。これらの広大な敷地は国家社会主義者の領土であり、ヴァイキング様式の建築、様々な制服の服装、そして何よりも民俗的共同体の共通精神が、卓越した白人の世界を象徴していた。1937年6月から9月にかけて、「ヒンデンプルク」と「ノルトランド」で遊び、学んだ600人の子供たちが、ブンド収容所を最も熱心に訪れたのは間違いない。彼らはどんな“キャンプアウト”を過ごしたことだろう！秋に少年少女たちが通常の公立学校や教区学校に戻った後、彼らが最初に書いた「夏休みをどう過ごしたか」という作文は、間違いなく教師たちにとって目を見張るような読み物になったことだろう！ダイヤモンドでさえ、子供たちが「夏を楽しんだようだ」と恨めしそうだ。

美しく清潔なキャンプ場は大好評で、年間を通じてコテージを貸し出ししていたバンドの収入も増えた。残りの収入は、会費、サポーターからの寄付、雑誌の販売、広告によるものだった。外務省の出版物の広告主には、シュリッツ醸造会社、テレフンケン・レコード、ハパグ・ロイド・ライズ、ハンブルグ・アメリカ汽船会社などが名を連ねていた。クーンがリーダーに選ばれてから数ヵ月後には、外務省は財政的に完全に自立していた。「瀕死の状態にあった外務省に新たな息吹を吹き込み、ドイツからの援助なしでそれを成し遂げたのである。

総統閣下との偶然の出会い

クーンの素晴らしい業績にもかかわらず、ボーレは、ほとんどのアメリカ人にとって、外務省は「ドイツ的すぎる」存在であり、間違っているかもしれないが、アメリカにおける第三帝国の破壊的な部門に似ているのではないかと心配していた。クーンは、ドイツ連邦連合会は、その規模が拡大しようとも、テイトニア協会の初期から変わらぬものであり、政治的というよりは友愛的なクラブであったと断言した。しかし、ボーレは疑念を抱いており、A.O.から文献を受け取るだけで、それ以外は何も受け取らない外務省を公式に承認することを拒否した。その歴史を通して、ドイツと外務省の関係は冷淡なものであった。ドイツの国家社会主義者たちは、自分たちが他国の内政に干渉しているという印象を消したかったのだ。

ボーレの事務所は、A.O.と海外での疑念を避ける必要性について、非常に明確な考えを持っていた：「A.O.の目的は、外国にいるドイツ人に、自分たちが客人として滞在している国の法律と習慣を厳格に尊重する態度を維持するよう奨励すると同時に、自分たちの祖国を決して忘れないようにすることである。外国人組織（A.O.）は、外国にいるすべてのドイツ人が祖国と連絡を取り合い、日常生活の中で祖国の理想を守ることができるように支援する」。ボーレは、外人団体（A.O.）がアメリカナイズされたことで、彼がA.O.に設定した厳格な基準が損なわれていることを痛感した。アメリカ人らしくない響きに関しては、クーン自身の厚いバイエルン訛りほどひどいものはなかった。アメリカ英語を話せる他の誰かを見つけることはできなかったのだろうか？

しかし、『ニューヨーク・タイムズ』紙の一面を飾った、恥ずべき外務省指導者がアドルフ・ヒトラー本人と親しげに談笑している写真を見て、A.O.総書記は、ショックとまではいかなくとも、最も愕然とした。その“フィフス カラム”プロパガンダの意味合いに目をつけた敵対的な（つまりユダヤ系の）報道機関は、フリッツ・クーンと総統が国際的に結託している証拠だとして、この写真を世界中に流した。ボーレは、ユダヤ人がこのとんでもない失態を政治的に大々的に利用しようとしてい

ることを知っていた。

しかし、物議を醸したこの会談は、世間が信じているほど極悪非道なものではなかった。クーンはたまたまオリンピックのためにベルリンに滞在しており、当時多くの外国人観光客（そのほとんどは一般人）がそうであったように、ヒトラーと会う機会があった。総統は彼に礼を言い、ミュンヘン（クーンの故郷であり、ヒトラーのお気に入りだった）についての歓談を交わし、15分ほどで会話は終わった。この会談は無邪気なものであったが、クーンは米国で絶大な信用を得た。彼らはブンディストについてあらゆる角度から調査し、わずかでも法律的に不適切な点があれば犯罪にしようとした。ダイヤモンドが書いているように、「マコーマック＝ディックシュタイン調査官（と国務省高官）を悩ませた問題は、ブンディストが既存の連邦法に違反していなかったことだった。非米国主義を告発することと、それを証明することは別のことだった。合衆国司法長官ホーマー・カミングスとFBI長官J・エドガー・フーバーは、ブンドの内情を調査し、1938年1月5日、このグループは連邦法に違反していないと発表した。クーンは「アメリカの法制度に逆らわず、その中で活動しなければならない」と考えていた。

マディソン・スクエア・ガーデン・ラリー

やがて外灘は、ボーレが恐れていたような破壊的な組織とみなされることはめっきり少なくなり、特に民衆の憤りが外灘派からフランクリン・ルーズベルト大統領の戦争主義へと移っていった。ブンドは、アメリカをヨーロッパ人種主義者に対する軍事侵略に巻き込もうとする彼の努力に声高に反対した多くの愛国的グループのひとつとなった。第二次世界大戦の全責任はヒトラーにあるとする容赦ないプロパガンダが50年も続いた今日では、ほとんど記憶されていないが、ラドロー決議は1937年初頭、F.D.R.が精力的に推進した反米計画で、連邦司法を再編成し、“宣戦布告の国民投票”を求めることができた。これは、合衆国憲法に議会の専権事項として規定されている宣戦布告の権利を、新聞の投票に委ねることを意味する。言い換えれば、ジャーナリズムと政府のデマゴグによって国民のヒステリーを十分に煽ることができれば、アメリカ国民

は、自分たちの隠された意図を持つ影響力のある特別利益団体によって、わずかな口実で戦争に引きずり込まれる可能性があった。ジョージ・ワシントンが警告したような外国との関わり合いに我が国を巻き込もうとする彼の願望に議会が断固反対していることを知っていたF.D.R.は、ある歴史家が表現したように、「戦争への裏口」を探した。ルドロー決議案は、ルーズベルトが所属する国際的プルトラシーから自国民を解放するために戦ったヨーロッパ人に対して、違憲かついわれの無い侵略を行おうとする見え透いた試みであった。

ホワイトハウスの大砲を恐れていたアメリカ人は、ペンシルベニア州リーディングでの集会を皮切りに、クーンの孤立主義的見解を真剣に受け止め始めた。さらに大規模な集会が1939年2月20日、ニューヨークで開催され、外聯は公の場で最大の成功を収めた。マディソン・スクエア・ガーデンは、巨大な鉤十字の旗で飾られ、外務省のスローガンが掲げられた。いくつかの地方本部のブラスバンドがホルスト・ヴェッセルの歌（国家社会主義国歌）を演奏すると、喝采が沸き起こった。音楽と拍手が大ホールを満たす中、3,000人以上のO.D.ストームトルーパーがマディソン・スクエア・ガーデンの後方から演壇まで完璧な隊列で行進し、フリッツ・クーンが22,000人の聴衆に向かって演説を行った。彼の近くには、誕生日を祝っていたジョージ・ワシントンの高さ30フィートの肖像画がそびえ立っていた。初代大統領の有名な「外国との関わりを持たない」という方針と、F.D.R.の新たな対外戦争に向けた国際的な策謀を対比させ、最もタイムリーなテーマとなった。

なぜならヒトラーは、ドイツ国民を外国の証券取引所の影響から経済的に独立させるシステムを作り上げたからである。繁栄するドイツを失うことは、国際的な金の亡者たちにとって最悪だった。しかし、同じような考え方に外部の国々が好意的な目を向け始めていた。もしそれが他の国にも広がれば、ユダヤ人による世界への金融支配は失われることになる。そして、他の異邦人国家も同じようにマルクス主義の不安に悩まされ、さらに共産主義を一掃できるほど強力な唯一のイデオロギーである国家社会主義とファシズムに惹かれ始めた。クーンは予言的に警告した。もしアメリカが枢軸国との戦争に参戦すれば、軍事的には勝利するかもしれないが、政治的には確実に敗北するだろう。アメリカ政府への

共産主義者の浸透は、我々の自由を破壊し、マルクス主義はアメリカの思想に浸透し、興奮し武装したニガーの大群は、夢にも思わなかった規模の都市犯罪の波をもたらすだろう。ジョージ・ワシントンが立憲共和制の父であるように、アドルフ・ヒトラーは人種ナショナリズムの父である。この2つはお互いを排除するものではない。それどころか、アーリア人の政治的・人種的自由の象徴として、両者は互いに補完し合っているのである。

エムスト・ボーレを恥ずかしがらせるような濃いドイツ訛りではあったが、外務省指導者の言葉は熱狂的に受け入れられた。大部分は！彼の演説は時々、会議を妨害するために送り込まれた共産主義者のハッカーによって中断された。ストームトルーパーの苛立ちと落胆をよそに、マルクス主義者であることが明白なこの妨害者たちに激怒した群衆のメンバーは、不安に駆られたO.D.隊員が手を下す前に、すぐに赤軍派を殴り倒し、血まみれの死体にしてしまった。幸運なことに、そのチャンスは夕方になってやってきた：「一人の男、イサドール・グリーンバウムが、クーンを警護していた国防総省の隊列を突破し、ブンデスライターに襲いかかろうとした。警備兵がグリーンバウムに襲いかかり、ステージから引きずり降ろした」。彼らはそれ以上のことをした。彼らはグリーンバウムをほとんど殴り倒した後、ズボンを引き裂き、パンツまで脱がせ、22,000人の観衆の前に素っ裸で投げつけた。グリーンバウムは尻尾を股の間に挟んで会場から逃げ出し、ニューヨークの冬の空気の中に放り出された。

"1940年に100万人の会員を！"

マディソン・スクエア・ガーデンは、6年前のユダヤ人ヘイト裁判から一回りしたところだった。そこでの大集会は、外務省の活動の絶頂期を象徴していた。巨大な客席に掲げられた数枚の文字入りの横断幕の中には、"1940年に100万人の会員を！"と書かれたものがあつた。その目標はフリッツ・クーンの手が届かないところにあつたかもしれないが、実際、ブンドは何人の信者を集めたのだろうか？ 不思議なことに、確かなことは誰にもわからない。第二次世界大戦にアメリカが正式に参戦する

前に、連邦政府による反ナチスの魔女狩りを見越して、ブンド主義者たち自身によって会員名簿が破棄されたと考えられている。ダイヤモンドは、O.D.ストームトルーパーは全メンバーの10分の1を占めていたと書いている。そうであるならば、マディソン・スクエア・ガーデンに集まったブンドの人数は、ニューイングランド地方に属し、ミシシッピ川以東の他の本部からさらに1,500人から3,000人が集まったと推測できる。さらに1,500人から3,000人が残りの部隊を構成していた。O.D.の4,500人という低い数字をとると、4万5,000人のバンドメンバーという大まかな数字になる。これらはカード所持の活動家で、会費を払い、集会に出席し、文献を配布することを最低限の任務としていた。

メンバー以外にも、未登録のサポーターや、さまざまな不規則な方法で運動に貢献するシンパがいた。会員1人につき約5人の支持者がいたのだから、このような人たちはおそらく25万人ほどいただろう。内戦に好意的で、選挙で内戦候補者に投票する機会があれば投票したかもしれない人々については、誰も確かなことはわからない。しかし、間違いなく数百万人のアメリカ人、上に引用した数字からするとおそらく500万人から1000万人ほどのアメリカ人が、外務省に投票したであろう。アメリカにおけるこのような広範な支持と活動は、国家社会主義がアメリカでは大衆に支持されることはなかったという計算された嘘を永久に覆すものである。しかし、ユダヤ人が一般大衆に語ることに、彼らが自分たちの間で議論することはまったく別のことである。

捕らえた報道機関を通じて、外務省はヒトラーがアメリカを乗っ取るために送り込んだ非アメリカ的な“トロイの木馬”だと叫んでいたが、外務省の絶大な支持と、F.D.R.の温暖化政策に対する孤立主義者のはるかに大きな憤りから、そのごまかしは急速に陳腐化しつつあることを知っていた。ハリウッドや新聞のプロパガンダでは、彼らの計画に対する民衆の反発の高まりを食い止めることはできなかった。F.B.I.や議会の調査委員会にいる彼らの手下たちも、合法的に外務省を閉鎖することはできなかった。

裁判と投獄

ユダヤ人たちは、単なる異邦人の合法的な手続きでは決して動じない民族であった。ユダヤ人の住むニューヨークの中心で大規模な集会を大成功させたことで、外務省の指導者は彼らが我慢できないほどの大胆さを発揮した。マディソン・スクエア・ガーデンの集会からわずか2ヵ月後、彼は同市の地方検事で政治的野心家のトーマス・デューイに偽造と窃盗の罪で起訴された。デューイは、ユダヤ人の宿敵をはりつけにすることで、来るべき大統領選挙キャンペーンでユダヤ人の支持を得ようと考えていた。皮肉なことに、クーン裁判は、彼が16年前に参加したミュンヘン一揆の記念日である11月9日に開かれた。それは再び自己犠牲の時代であることを証明することになった。

クーンはイタリア系アメリカ人の敏腕弁護士に弁護された：「サバティーノの弁護はすばらしく、しばらくの間、デューイはこの裁判に勝てないだろうと思われた。サバティーノの起訴は食傷気味だった。"2月の集会の収益金14,548ドルの流用疑惑を含む、クーンに対する主な起訴は棄却された。「最終的には、クーンが前年のドイツ・アメリカ和解連盟事件で6人のブンディストを弁護した弁護士に500ドルの弁護士報酬を支払っていないという疑惑で決着した。罪状は些細なものだったが、検察側は「クーンは弁護士報酬を支払ったと主張したが、実際にはその金（500ドルもするのかわ！）を盗み、帳簿の金額を偽造したのだと陪審員を説得しようとした。最後までクーンは無実を主張した。」

確かに、彼のスパルタ的な生活スタイルと、長年にわたる貴重な化学者としての蓄えは、これほど低額の窃盗を現実離れしたとんでもないものに思わせた。さらに、クーンの人生の全ては外務省だった。サバティーノが指摘したように、彼の全人生において、不正や不適切な、少なくとも犯罪行為を示すものは何もなかった。それどころか、彼は第一次世界大戦では一貫して祖国のために自らを犠牲にし、ミュンヘン一揆では命がけで戦い、その後は家族のため、そして外務省のために惜しみなく尽くしてきた。彼と彼の妻は、大きな家も、高価な車も、裕福な銀行口座も、贅沢な財産も持っていなかった。しかし、ここは結局のところ、ユダヤ人の長年の夢であったヒトラーとの戦争前夜のニューヨークであっ

た。こうして12月5日、フリッツ・クーンは有罪となり、シンシン刑務所で2年半から5年の刑を言い渡された。

外灘の終焉

日本軍が真珠湾を攻撃すると、外務省は自主的に解散した。それは、アメリカの国家社会主義者にとって最も暗い時代だった。ヨーロッパの白人同胞を殺し、旧世界の文化を破壊するために、同胞の大勢が嬉々として労働し、戦い、時には命を落とす中、彼らは沈黙を強いられただけではなかった。彼らは、過去6年間の努力、夢、勝利、希望が戦争ヒステリーで蒸発するのを目の当たりにした。最悪なことに、ブンディストたちは第三帝国の崩壊と、異邦人の手先の軍団を通した世界ユダヤの忌まわしい勝利を目の当たりにしなければならなかった。前例のないアーリア人種の交わりの時代と、新しい白人文明の約束の光は消え去った。今後、西洋の衰退は、ブンディストが長い間警告してきたような力によって、アメリカ社会を内部破壊へと引きずり込むだろう。それは世界の終わりの始まりであり、彼らはそれを知っていた。しばらくの間、それは耐え難いものだった。絶望に打ちひしがれたジョージ・フロブスは、1942年6月16日、自ら命を絶った。

フリッツ・クーンの悲しい運命

フリッツ・クーンもまた死を望んでいた。彼は連邦刑務所に収監され、外の世界からは忘れ去られ、看守からも受刑者からも軽蔑されていた。妻のエイサと子供たちでさえ、ドイツに送還されていなくなってしまった。これほど孤独な男はいない。収監中、彼は市民権を剥奪され、戦後は強制送還された。体調を崩し、1946年4月に釈放された。彼が最後に祖国を見たのは、第三帝国の栄光の時代だった。故郷に戻った彼は、工業化学者として小さな工場に就職した。しかし、ユダヤ人の復讐心はまだ満たされず、バイエルン州のいわゆる “脱ナチ化 ”当局によって、わずか1年の自由の後、アドルフ・ヒトラーと親密な関係にあったという明白な虚偽の、まったく根拠のない容疑で再び逮捕された。

クーンはアメリカの戦争犯罪調査官によってダッハウ強制収容所に無期限収容された。そこの米空軍施設で働いていた若い少女ヘドウィグ・ミュンツは、介護と不当な扱いで年甲斐もなく老いた彼を哀れみ、収容所の正面玄関から手を引いて連れて行った。ヘドウィグに紳士的な感謝の意を示しながらも、彼は自分の予期せぬ解放には無関心のようだった。6ヵ月後の再逮捕にも抵抗せず、冷酷な役人たちは冬の始まりとともに彼を暖房のないダッハウに戻した。1950年によく釈放され、家に帰って死ぬよう促された。10年にわたる投獄生活は、彼の以前の頑健な肉体を崩壊させた。55歳になったフリッツ・クーンは、1951年12月14日、大好きだったクリスマス・キャロル “きよしこの夜 ”を聴きながら、彼と彼の理想が生まれた街ミュンヘンで息を引き取った。

彼の死は事実上、世間一般に知られることはなかった。韓国では若いアメリカ兵が非白人の共産主義者に殺されていた。



NS KAMPFRUF
KAMPFSCHRIFT DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFRÜHMUNGSORGANISATION

Der Kampf geht weiter!

Seitdem Hitler nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 die atomisierbare Bombe erfunden hat, ist die Welt in der Nachkriegszeit. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

„Menschen von Wissenschaft, Technologie, Vererbung und Vererbung haben nicht angeordnet, den Kern der gesamten Welt umarmen hoch glühenden Führer Adolf Hitler zu entwickeln.“

Alle Nationalsozialisten sind weniger gefährliche Völkler und Kameraden, sondern schädel an Schädel im Kampf um die Erfüllung unserer weisen Völkler.

Die Bewegung ist zwar stärker geworden, aber die Größe des biologischen Volkstums ist heute noch viel größer als in der Vergangenheit.

Ein erneuertes Europa ist oben dabei, die Völkermord – gegen alle weisen Völkler () – zu beenden. Keine Mittel und Eisenbahnen, Überflutung und Rassenmischung!

Ob „Nazi“ oder „Hitler“, ob in Wahlkampf oder im Braunkampf, ob mit Propagandaarbeit, bewaffnet oder auf einem Schlachtfeld anderer Art: Jeder Nationalsozialist hat seine Pflicht!

Hitl Hitler!
Gottwald Luck



TROTZ VERBOT NICHT TOT!



N.S.ニュース速報A
www.nsdapao.org
#1005 19.04.2022 (133)
NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート
モリーへのインタビュー
第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものです。

このような話題が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続けていますが、主に Adolf Hitler and the Army of Mankind (www.mourningthescient.com/truth.htm)に集中して取り組んでいます。現在のページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の終結は、まさに情報の地雷原です。1つのことについて情報を掘り下げて、さらに詳しく調べたいことが出てくる。まるで、埋も




the **NEW ORDER**

Number 176 (133) Founded 1973 April 26, 2022 (133)

The Fight Goes On!

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defamation have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware contemporaries and racial kinfolks fight side by side for the preservation of our White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are non-White immigration, culture denigration, and race-mixing.

Whether "legal" or "illegal", whether in election halls or street battle, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind: every National Socialist must do his duty!

Hitl Hitler!
Gottwald Luck



TROTZ VERBOT NICHT TOT!

NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー!

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物
多くの言語の何百冊もの本
多くの言語の何百ものウェブサイト



BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!
www.third-reich-books.com



NSDAP/AO
Fight Back!



nsdapao.org
Contact us to find out how YOU can help!